

令和8年2月

救急告示医療機関における 児童虐待早期発見のための体制整備について

大阪府健康医療部保健医療室
地域保健課母子グループ

本日の内容

- 府内救急告示医療機関における体制整備の経過
- 認定要件について
- 参考にしていただく資料
 - 「医療機関における子ども虐待予防早期発見初期対応の視点」
 - 「医療機関用対応シート」
- 自主点検のご協力をお願い
- 終わりに

府内救急告示医療機関における体制整備の経過

児童虐待防止医療ネットワーク事業

平成29年度～令和元年度

- 平成29年度
- ・体制整備状況のアンケート調査
 - ・救急告示医療機関の認定条件に「児童虐待に組織として対応するための院内体制整備」を要件化
- 平成30年度 更新・新規の33件について体制整備を確認（全数のうち約**11%**）
- 令和元年度 更新・新規の167件について体制整備を確認（全数のうち約**70%**）

医療機関における児童虐待防止体制整備フォローアップ事業

令和2年度～令和4年度

- 令和2年度 更新・新規の103件について体制整備を確認（全数**100%**が体制を整備）

- ・令和3年度以降も引き続き、新規申請及び3年に一度の更新申請時に、所管の保健所を通じて体制整備の書類を確認しています
- ・必要時には地域保健課母子グループから直接内容をお尋ねすることもあります

保健所立入検査で確認（自主点検のご協力）

令和5年度～

- 令和5年度～ 保健所の立入検査時に「自主管理票（スライドP.13）」を確認

救急告示医療機関（二次）の認定要件について

【児童虐待早期発見のための体制整備】

- A 児童虐待に関する**外部機関との連携窓口**を設置していること
- B-1 児童虐待に関する**委員会**を設置していること
- B-2 児童虐待**対応マニュアル**を作成していること

児童虐待早期発見のための体制整備確認書

年 月 日

➡提出書類のうち、

「児童虐待早期発見のための体制整備確認書」で
上記 3 点を確認いたします。

医療機関名				
所在地				
担当者	所属・職		氏名	
	TEL		FAX	
	E-mail			

A 児童虐待に関する外部機関との連絡窓口

時間帯	窓口担当者情報			
	部署	役職等	氏名	内線番号等
平日時間内				
平日時間外				
土・日・祝日等				
備考				

Aは必須要件

B 児童虐待に関する委員会又は児童虐待対応マニュアルの作成

下記のいずれかを記の上、 右記の必要書類を添付してください※		必要書類（A 4 指定）
<input type="checkbox"/>	B-1 児童虐待に関する委員会の設置	設置要綱・委員名簿・組織体制図の3点の写し
<input type="checkbox"/>	B-2 児童虐待対応マニュアルの作成	児童虐待対応マニュアルの写し（以下3点必須） ・チェックリスト又はアセスメントシート ・児童相談所の連絡先一覧 ・時間帯別（平日時間内、平日時間外、土・日・祝等） の児童虐待対応のフローチャート

Bは、少なくとも1つを満たす必要があります

※虐待を受けていることもが救急受診する可能性の高い、
小児科・産婦人科・整形外科・外科・脳外科等の
救急告示医療機関では**両方を満たすことを推奨**

要件A 児童虐待に関する外部機関との連絡窓口の設置

- ①平日時間内、②平日時間外、③土日・祝日等
3つの全ての時間帯で窓口が設置されていること。

A 児童虐待に関する外部機関との連絡窓口

時間帯	窓口担当者情報			
	部署	役職等	氏名	内線番号等
平日時間内				
平日時間外				
土・日・祝日等				
備考				

※連絡窓口となる部署、役職等、氏名、内線又は直通番号を記入してください。

※担当者が不在の場合であっても速やかに対応できるよう、

備考欄には、窓口担当者と連絡がつかなかったときを想定した対応があれば
ご記入ください。

要件B-1 児童虐待に関する委員会の設置

①設置要綱、②委員名簿、③体制組織図の3点の写し

➡①～③が具体的かつ適切であると確認できること。

小児に関わる全ての診療科や看護・検査・事務部門も含めた院内連携体制。
いわゆるチームとして対応する。

委員会（院内虐待対応チーム）の意義

- ①（実質的にも精神的にも）主治医の負担を軽減し役割分担をする。
- ② 病院として責任を持つ（主治医だけの責任としない）。
- ③ 病院の中で虐待対応に対する知識を結集する。
- ④ 虐待の診断に必要な検査や取り組みの提案をする。
- ⑤ 院内（他科や多科）連携をスムーズにする。
- ⑥ 院外連携（医療機関連携・地域機関連携）をスムーズにする。

委員会（院内虐待対応チーム）のメンバー

虐待対応は、医学的判断のみならず、子どもとの接し方や生活の仕方などから総合的に判断されることが多いため、医療職以外のメンバーも含めて検討することが望めます。

子ども虐待予防早期発見・初期対応の視点P36 病院における対応より

要件B-1 児童虐待に関する委員会の設置

①設置要綱（一例）

●●病院児童虐待対応委員会設置要綱

（設置）

第1条 ●●病院を受診する児童の虐待被害を早期に発見し、・・・再発を防止するため、●●病院児童虐待防止委員会を設置する。

（委員）

第2条 委員会は、別紙に掲げる委員をもって組織する。

（委員会の開催）

第3条 ……

②委員名簿（一例）

●●病院児童虐待対応委員会委員名簿

委 員 長	院長	●●	●●	医師
副委員長	副院長	●●	●●	医師
委 員	事務長	●●	●●	事務
委 員	師長	●●	●●	看護師
			・	
			・	
			・	

（過去の疑義照会）

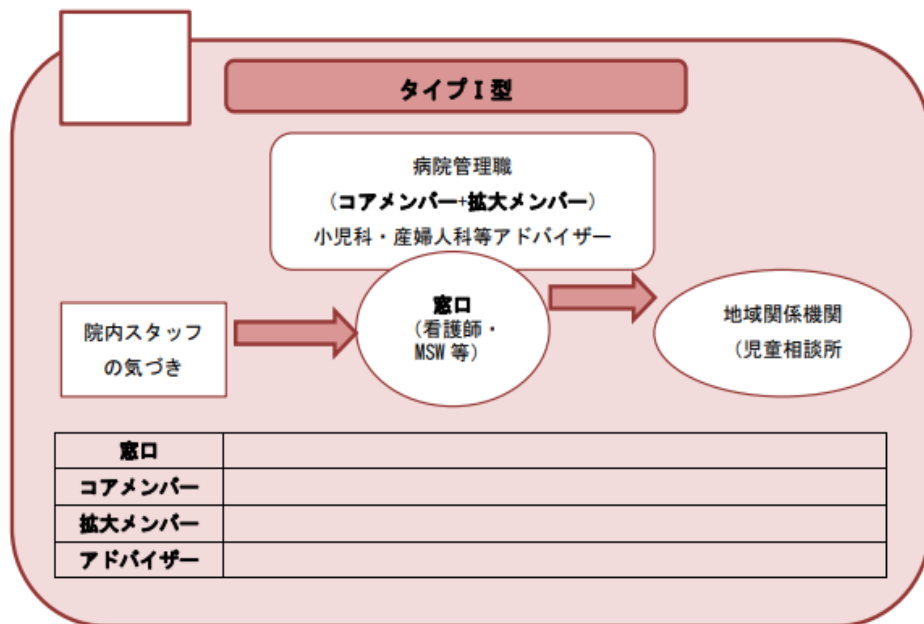
- ・設置要綱や委員名簿が他の委員会のものであり、児童虐待に関する組織であることの記載がない。
- ➡児童虐待に関する委員会のみのものでなくても構いませんが、その場合は「●●委員会は、児童虐待対応委員会を兼ねる」等、児童虐待に対応する旨を記してください。

要件B-1 児童虐待に関する委員会の設置

③体制組織図（一例）

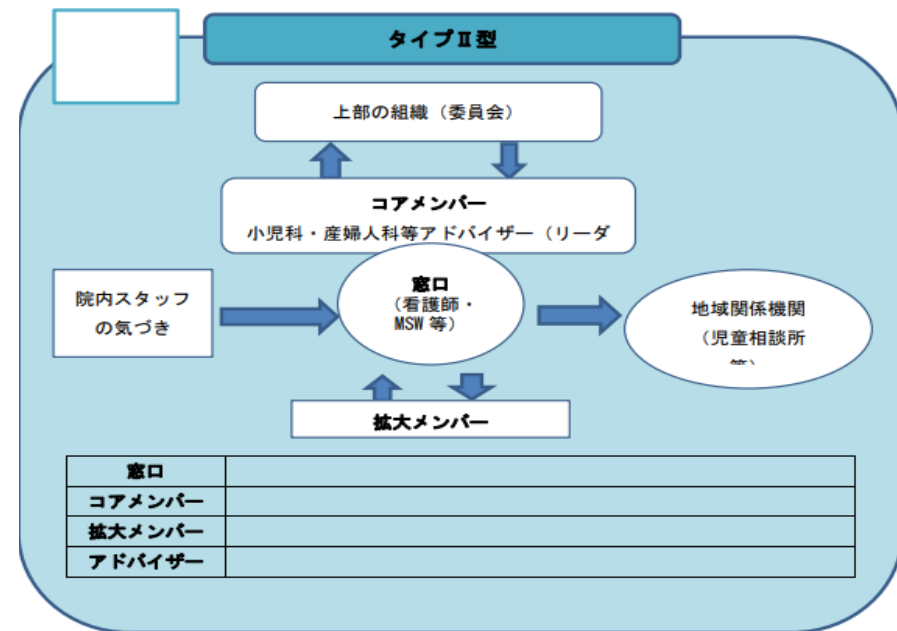
タイプⅠ型

院内虐待対応チーム(委員会)の長が病院管理職の場合



タイプⅡ型

院内虐待防止対応チーム(委員会)の長が病院管理職ではなく、小規模のコアメンバー体制



参照「医療機関における子ども虐待予防早期発見初期対応の視点」P.37-38、「医療機関用対応シート」P.6

(過去の疑義照会)

- ・病院全体の組織図が提出されたが、児童虐待に関する組織の記載がない。
- ➡病院全体の組織図は必須ではありません。当該委員会の体制がわかる組織図を提出してください。
- ・組織図に記載された職名や内線番号が更新されておらず、委員名簿と異なる。
- ➡書類を更新する際は、AやB-1①～③の内容を合わせて更新してください。

要件B-2 児童虐待対応マニュアルの作成

- ①チェックリストもしくはアセスメントシート
- ②児童相談所の連絡先一覧
- ③平日時間内の児童虐待対応のフローチャート
- ④平日時間外の児童虐待対応のフローチャート
- ⑤日・祝日等の児童虐待対応のフローチャート

3つの時間別で
流れがわかるもの

➡①～⑤が具体的かつ適切であると確認できること。

フローチャートについて

救急診療場面においては、こどもの身体状況の重症度が高く、
かつ、夜間の診療時間帯等受診や受診の遅れがある場合も多いので、
3つの時間別の院内対応フローチャートを作成してください。

子ども虐待予防早期発見・初期対応の視点 P26参照

要件B-2 児童虐待対応マニュアルの作成

①「チェックリスト」「アセスメントシート」

②児童相談所の連絡先一覧

医療機関内での場面別にみられるポイント

医療現場では、親子との接触時間が短い、もしくは単回の経過や背景がわからないことが多く、虐待のリスクを把握するため、医師だけでなく職員全員で保護者や子どもの様子から親と子どもの状況を観察し、以下のような事象があるの観察という医療機関での虐待を発見しにくい環境を補うこと

【病院での場面別の例】

場面	項目	親の状況
受付・事務部門	保険	<input type="checkbox"/> 保険証がない <input type="checkbox"/> 保険証を持参していない <input type="checkbox"/> 母子医療 <input type="checkbox"/> 住所が不定 <input type="checkbox"/> 来払い
	態度	<input type="checkbox"/> 事務手続きをしない <input type="checkbox"/> 事務 <input type="checkbox"/> 診療への不満を種々陳述する
待合室	その他	<input type="checkbox"/> 保護者が付き添わない(年齢が低い) <input type="checkbox"/> 順番が待てない <input type="checkbox"/> 他の家族とラフ <input type="checkbox"/> 場所をわきまえず騒ぐ <input type="checkbox"/> 子どもの言 <input type="checkbox"/> 子どもを異様に叱りつける <input type="checkbox"/> 子どもの重症度と無関係な態度が見え <input type="checkbox"/> 子どもを見る目が険しい
	態度	
診察室	母子健康手帳	<input type="checkbox"/> 複数回持参していない、または、促して <input type="checkbox"/> 健診歴がない、少ない(健診間隔が、)
	既往歴	<input type="checkbox"/> 予防接種をしていない、拒否する <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 以前の病歴と現在の病歴が異なる <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 家族の中で既往歴の把握が異なる
	現病歴	<input type="checkbox"/> 発症や受療状況をきちんと説明できない <input type="checkbox"/> 受傷経緯と外傷状況に齟齬がある <input type="checkbox"/> 保護者間で説明が食い違う <input type="checkbox"/> 受診 <input type="checkbox"/> 家庭看護がほとんどない <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 子どもの病状把握ができていない
	診療説明	<input type="checkbox"/> 状態に関わらず自己主張が強く、不要 <input type="checkbox"/> 重症度に全く関心がない <input type="checkbox"/> 診断名 <input type="checkbox"/> 説明に対して質問がない <input type="checkbox"/> 治療や <input type="checkbox"/> 子どもの病状よりも自分の都合を優先 <input type="checkbox"/> 一回の治療で完結できる治療法を望み <input type="checkbox"/> 再受診などの説明の理解をしない <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 家族のことを話さない
入院中		<input type="checkbox"/> 子どもへの関心が薄い(面会が少ない) <input type="checkbox"/> 子どもが泣いていても、授乳や抱っこ <input type="checkbox"/> 子どものそばから離れようとしていない <input type="checkbox"/> 原因不明の入院歴の繰り返し(代理医)
共通	態度	<input type="checkbox"/> 他の子どもに乱暴する <input type="checkbox"/> 誰にでも <input type="checkbox"/> 親の傍らに近寄らない <input type="checkbox"/> 入院中、保

身体診察のポイント

診察を進める際、一度にすべてを問はず、一度に診察する範囲はできるだけ小さくします。

部位	視診等による観察点・留意点
身体	<input type="checkbox"/> 月齢・年齢と比較して、 <input type="checkbox"/> 低体重 <input type="checkbox"/> 低身長
表情	<input type="checkbox"/> 活気がない <input type="checkbox"/> おびえている <input type="checkbox"/> 痛みへの無反応
意識	<input type="checkbox"/> 意識が醒めない
皮膚	<input type="checkbox"/> 全身くまなく観察 <input type="checkbox"/> 外傷痕(新旧混在、見えにくい部位、加害原因物の推定ができる) <input type="checkbox"/> 皮下出血 <input type="checkbox"/> 熱傷 <input type="checkbox"/> 顔色
頭部	<input type="checkbox"/> 抜毛部位(後頭部の診察を忘れずに実施)
顔部	<input type="checkbox"/> 耳・口の腫れ、裂傷 <input type="checkbox"/> 口の唇の腫れ、裂傷、 <input type="checkbox"/> 口角部の腫れ、裂傷 <input type="checkbox"/> 頬粘膜の腫れ <input type="checkbox"/> 口唇小帯の裂傷 <input type="checkbox"/> 口蓋粘膜の腫れ <input type="checkbox"/> 外傷後の開口障害 <input type="checkbox"/> 多数の未処置のう歯
眼	<input type="checkbox"/> 頭部外傷の可能性があれば、必ず眼底鏡で観察 <input type="checkbox"/> 眼瞼部の外傷 <input type="checkbox"/> その他の出血
耳	<input type="checkbox"/> 外傷の有無を観察(不慮の事故で耳に外傷を負うことは滅多にない) <input type="checkbox"/> 耳介 <input type="checkbox"/> 耳介の後ろ側 <input type="checkbox"/> 外耳道 <input type="checkbox"/> 鼓膜
頸部	<input type="checkbox"/> 絞扼による索状痕の有無を観察 <input type="checkbox"/> 点状出血 <input type="checkbox"/> 挫傷(打撲傷)
胸部	<input type="checkbox"/> きちんと服を脱がせて観察する
背部	<input type="checkbox"/> 挫傷(打撲傷) <input type="checkbox"/> 咬創 <input type="checkbox"/> 爪痕 <input type="checkbox"/> 吸引痕
腹部	<input type="checkbox"/> 挫傷(打撲傷)等の外傷を視診だけでなく、触診もする <input type="checkbox"/> 腹部膨満 <input type="checkbox"/> 腹部圧痛(腹腔内損傷は、致死率が極めて高い)
性器	<input type="checkbox"/> 性虐待以外の虐待が疑われる子どもであっても、可能な限り全身の診察を行い、 <input type="checkbox"/> その一環として性器と肛門を診察する。逆に性虐待疑いの診察時にも、性器診察は <input type="checkbox"/> あくまでも全身診察の一環として行うべきである。性虐待被害児の性器に関する精密な、 <input type="checkbox"/> 専門医が高く、必要であれば対応可能な医師に連絡する。 <input type="checkbox"/> 裂傷 <input type="checkbox"/> 瘻管 <input type="checkbox"/> びらん
四肢	<input type="checkbox"/> 外傷の有無 <input type="checkbox"/> 機能障害 <input type="checkbox"/> 関節の可動域

虐待による外傷が起きやすい部位

※参考
「乳児の虐待被害・無断性けいれん・嘔吐による救急搬送の場合、揺さぶられ症候群(shaken baby syndrome)を鑑別診断に含みます。」
揺さぶられ症候群とは、頭を強く揺さぶられることで、頭蓋内出血や網膜出血、びまん性脳浮腫を主徴とする脳に重大な障害を起こすことをいいます。乳幼児の頭蓋下血腫のうち大半は虐待、特に暴力的な揺さぶりによって発生しています。事故との鑑別のため、頭部CTを撮影し、2〜3日後には、必ず頭部MRI、できれば、頭部MRIを撮影する必要があります。また、眼底所見(できれば写真撮影)も、客観的証拠となります。

「医療機関用対応シート」P. 2 - 3

■日中・夜間に通告をする場合を考慮した一覧表の作成をお願いします。

- ・ 所管の児童相談所
- ・ 市町村児童家庭相談所管部門
- ・ 児童相談所虐待対応ダイヤル(189)
- ・ 夜間休日虐待通告専用電話 等

■児童相談所の移転等にご注意ください。以下は一例です。

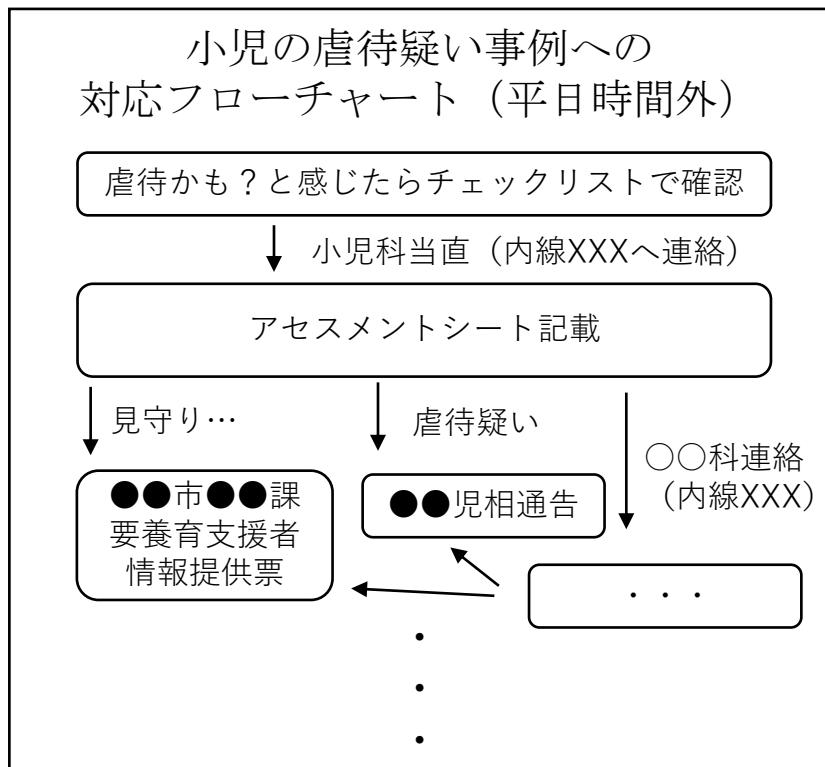
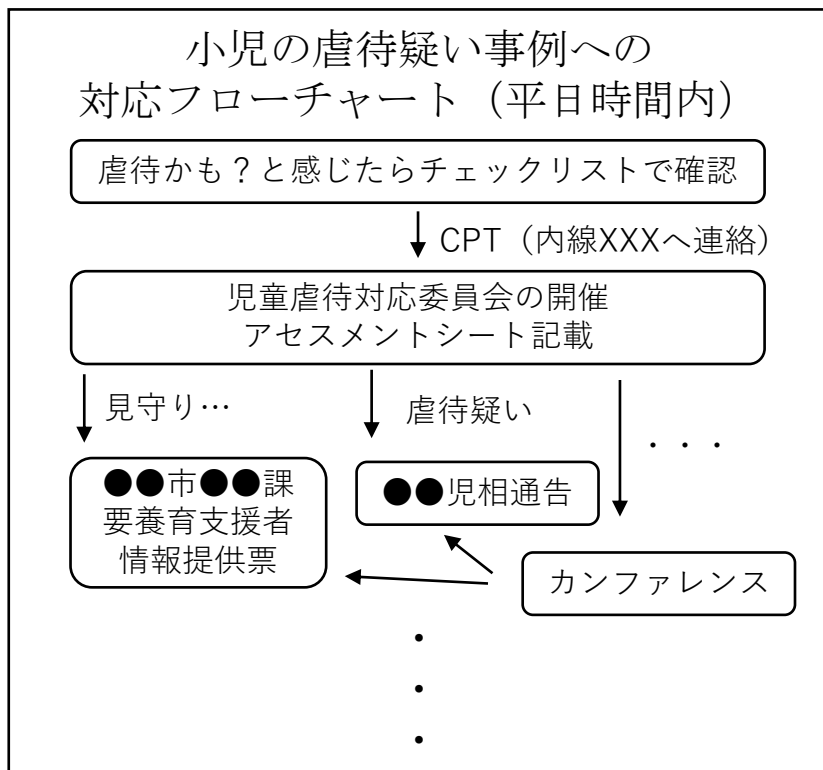
- ・ 旧 岸和田子ども家庭センター
➡貝塚子ども家庭センター (R6年度移転)
- ・ 旧 池田子ども家庭センター
➡箕面子ども家庭センター (R6年度移転)
- ・ 豊中市児童相談所 (R7年度開所)
- ・ 大阪市中央こども相談センター (R7年度移転)
- ・ 大阪市南部こども相談センター (R7年度移転)

(過去の疑義照会)

- ・ チェックリストやアセスメントシートがDV被害等成人を対象とした項目のみであり、児童虐待に関する項目がない。
- ➡ チェックリスト等を併用していただく場合は、児童虐待を対象とした項目を追加してください。
- ・ 連絡先一覧の更新がされていない。所轄の児童相談所の連絡先がない。

要件B-2 児童虐待対応マニュアルの作成

③～⑤時間帯別対応フローチャート（一例）



（過去の疑義照会）

- ・時間帯別のフローチャートがなく、平日時間外／日・祝日の対応フローが不明。
- ➡救急診療の場面においては、こどもの身体状況の重症度が高く、夜間の診療時間帯等受診や受診の遅れがある場合も多いため、必ず時間帯別の対応フローを準備してください。
- ・病院所在地を管轄する児童相談所や市区町村児童家庭相談所管部署・保健機関の記載がない。

「医療機関における子ども虐待予防早期発見初期対応の視点」 「医療機関用対応シート」

ご活用ください



(改訂版)

医療機関（医師・歯科）における

子ども虐待予防 早期発見 初期対応の視点

—— 妊産婦から乳幼児期の保護を中心に ——

目次

まえがき

第1章 はじめに

1. 子ども虐待の現状
2. 通告義務と個人情報取扱いについて
3. 地域関係機関との連携

第2章 虐待の気づき・発見のポイント

1. 虐待の分類
2. 虐待の起きやすい要因（ハイリスク）
3. 医療機関内での場面別に見られるポイント
- 4-1. 子ども虐待の重症度判定の目安
- 4-2. 重症度判定基準別 初期対応の流れ

第3章 虐待ハイリスク・虐待疑い・虐待発見時の対応

1. 妊娠中の具体的対応と流れ
2. 出産時（入院中）の具体的対応と流れ
3. 子育て期（日常診療場面）の具体的対応と流れ
4. 子育て期（健診・予防接種場面）の具体的対応と流れ
5. 子育て期（救急診療場面）の具体的対応と流れ
6. 歯科医療機関における具体的対応と流れ

第4章 関係機関連携

1. 医療機関から保健機関（市区町村保健センター・保健所）（子育て世代包括支援センター）
2. 医療機関から児童福祉機関（市区町村家庭児童相談主管部署・児童相談所）
3. 要保護児童対策地域協議会

第5章 病院における対応

第6章 参考資料

1. 各関係機関の役割
2. 児童虐待に関する法律（法的根拠）
3. 要養育支援者情報提供票
4. 大阪府内の児童相談所

<作成に関して>

- ・平成24年3月発行時のマニュアル検討委員
- ・参考文献



医療機関用 対応シート

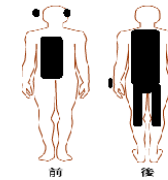
関係

- 市区町村母子保健 [名称] 連絡
- 市区町村児童福祉 [名称] 連絡
- 児童相談所 [名称] 連絡
- 保健所 [名称] 連絡
- その他 ①[名称] 連絡
②[名称] 連絡

身体診察のポイント

診察を進める際、一度にすべてを脱がさず、一度に診察する範囲はできるだけ小さくします。

部位	視診等による観察点・留意点
身体	月齢・年齢と比較して、 <input type="checkbox"/> 低体重 <input type="checkbox"/> 低身長
表情	<input type="checkbox"/> 活気がない <input type="checkbox"/> おびえている <input type="checkbox"/> 痛みへの反応
意識	<input type="checkbox"/> 意識障害がない
皮膚	全身くまなく観察 <input type="checkbox"/> 外傷痕（新旧混在、見えにくい部位、加害原因物の推定ができる） <input type="checkbox"/> 皮下出血 <input type="checkbox"/> 熱傷 <input type="checkbox"/> 顔色
頭皮	<input type="checkbox"/> 抜毛部位（後頭部の診察を忘れずに実施）
顔面	<input type="checkbox"/> 耳・口の挫傷、裂傷 <input type="checkbox"/> 口唇の腫脹、挫傷、割傷 <input type="checkbox"/> 角部の挫傷、割傷 <input type="checkbox"/> 頬粘膜の挫傷 <input type="checkbox"/> 口唇小帯の裂傷 <input type="checkbox"/> 口唇粘膜の挫傷 <input type="checkbox"/> 外傷後の開口障がい 口多数の未処置のう瘻
眼	顔面外傷の可能性があれば、必ず眼底鏡で観察 <input type="checkbox"/> 眼瞼外傷 <input type="checkbox"/> その他の出血
耳	外傷の有無を観察（不慮の事故で耳に外傷を負うことは滅多にない） <input type="checkbox"/> 耳介 <input type="checkbox"/> 耳介の後ろ側 <input type="checkbox"/> 外耳道 <input type="checkbox"/> 鼓膜
頤部	絞扼による索状痕の有無を観察 <input type="checkbox"/> 点状出血 <input type="checkbox"/> 挫傷（打撲傷）
胸部	きちんと服を着せて観察する
背部	<input type="checkbox"/> 挫傷（打撲傷） <input type="checkbox"/> 咬創 <input type="checkbox"/> 爪痕 <input type="checkbox"/> 吸引痕
臀部	挫傷（打撲傷）等の外傷を視診だけでなく、触診もする <input type="checkbox"/> 腰部挫傷 <input type="checkbox"/> 腰部挫傷（腰部内臓損傷は、致死率が極めて高い）
性器	性虐待以外の虐待が疑われる子どもであっても、可能な限り全身の診察を行い、その一環として性器と肛門を診察する。逆に性虐待疑いの診察時にも、性器診察はあくまでも全身診察の一環として行うべきである。性虐待被害児の性器に関する精密な、専門性が高く、必要であれば対応可能な医師に連絡する。 <input type="checkbox"/> 裂傷 <input type="checkbox"/> 瘻管 <input type="checkbox"/> びらん
四肢	<input type="checkbox"/> 外傷の有無 <input type="checkbox"/> 運動障害 <input type="checkbox"/> 関節の可動域



虐待による外傷が起きやすい部位

（※）参考
「乳児の意識障害・無反応性けいれん・嘔吐による救急搬送の場合、揺さぶられ症候群（shaken baby syndrome）を鑑別診断に食みます。」
揺さぶられ症候群とは、頭を強く揺さぶられることで、頭蓋内出血や網膜出血、びまん性脳浮腫を主徴とする脳に重大な障害を起こすことをいいます。乳幼児の硬下血腫のうち大半は虐待、特に暴力的な揺さぶりによって発生しています。
事故との鑑別のため、頭部CTを撮影し、2～3日後には、必ず頭部MRI、できれば、頭部MRIを撮影する必要があります。また、眼底所見（できれば写真撮影も）、客観的証拠となります。



大阪府ホームページからダウンロードできます

<https://www.pref.osaka.lg.jp/o100040/kenkozukuri/boshi/jidougyakutaibousint.html>

児童虐待対応院内体制整備に関する自主点検のご協力をお願い

児童虐待に対する院内体制整備自主管理票

令和7年度 保健所

これは貴施設の児童虐待に対する院内体制整備についての自己点検を目的としたチェックシートです。項目によっては、貴施設に適さない内容も含まれている可能性がありますが、各項目の内容を十分検討され、適切な児童虐待対応をお願いします。

立入検査当日は、当該チェックシートに基づき、当日保健所側で再点検いたしますので、立入検査当日までに施設側で自己点検・自己記入しておいてください。（適なら〔○〕、不適なら〔×〕、貴施設に関係のない項目は斜線を記入して下さい。）

児童虐待に組織として対応するための院内体制の整備※

■ A・Bいずれも満たしていること

■ BについてはB-1・B-2の2項目があり、最低、いずれか片方を満たしている必要があります

A 児童虐待に関する外部機関との連絡窓口を設置

B-1 児童虐待に関する委員会の作成

B-2 児童虐待対応マニュアルの作成

虐待を受けている子どもが救急受診する可能性が高い、小児科・産婦人科・整形外科・外科・脳外科等の救急告示医療機関では、B-1・B-2の両方の作成が推奨されます。

※平成30年度の新規・更新認定より救急告示医療機関の認定基準に追加

施設名: 施設点検者名: 施設点検日: 令和 年 月 日

点 検 項 目		院内 点検結果	保健所 点検結果
A 児童虐待に関する外部機関(児童相談所、市町村等)との連絡窓口の設置について			
1	児童虐待に関する外部機関(児童相談所、市町村等)との連絡窓口を設置しているか。		
2	1は、平日時間内、平日時間外、日・祝日等の全ての時間帯で設置されているか。		
3	1は、職員に周知徹底されているか。		
4	1～3のすべてが確認できるか。		
B-1 児童虐待に関する委員会の設置について			
5	児童虐待に関する委員会を設置しているか。		
6	5は、設置要綱を作成しているか。		
7	5は、委員名簿を作成しているか。		
8	5は、医学的判断のみならず、子どもとの接し方や生活の仕方などから総合的に児童虐待を判断できるメンバーで構成されているか。(児童虐待対応チーム CPT:多職種協働)		
9	7が図式化された体制組織図が作成されているか。		
10	児童虐待が疑われる事案が発生した場合は、5が速やかに開催されているか。(事案の発生が無い場合でも定期的に(少なくとも年1回程度)開催し、児童虐待に関する院内体制の実効性を確認し、必要であれば改善策を立案しているか。)		
11	10は、会議録が作成・保存されているか。		
12	10は、院内の職員に周知・伝達されているか。		
13	5～12のすべてが確認できるか。		
B-2 児童虐待対応マニュアルの作成について			
14	児童虐待対応マニュアルを作成し、職員に周知徹底しているか。 (例えば、マニュアルがすべての部署に配布されているか。)		
15	14には、児童虐待の有無を判断することが可能な「チェックリスト」もしくは「アセスメントシート」があるか。		
16	14には、児童相談所の連絡先一覧があるか。		
17	14には、平日時間内、平日時間外、日・祝日等の全ての時間帯に関する児童虐待対応のフローチャートがあるか。		
18	14は、必要に応じて実施状況の調査を行い、定期的に内容の見直しを行っているか。		
19	14～18のすべてが確認できるか。		
20	4、かつ、13または19が確認できるか。		

児童虐待対応院内体制整備に関する自主点検のご協力をお願い

■ A 児童虐待に関する外部機関（児童相談所、市町村等）との連絡窓口の設置について

1. 児童虐待に関する外部機関（児童相談所、市町村等）との連絡窓口を設置しているか。
2. 1 は、平日時間内、平日時間外、日・祝日等の全ての時間帯で設置されているか。
3. 1 は、職員に周知徹底されているか。
4. 1～3のすべてが確認できるか。

児童虐待対応院内体制整備に関する自主点検のご協力をお願い

■ B-1 児童虐待に関する委員会の設置について

5. 児童虐待に関する委員会を設置しているか。
6. 5は、設置要綱を作成しているか。
7. 5は、委員名簿を作成しているか。
8. 5は、医学的判断のみならず、子どもとの接し方や生活の仕方などから総合的に児童虐待を判断できるメンバーで構成されているか。（児童虐待対応チーム CPT：多職種協働）
9. 7は、図式化された体制組織図が作成されているか。
10. 児童虐待が疑われる事案が発生した場合は、5が速やかに開催されているか。（事案の発生が無い場合でも定期的に（少なくとも年1回程度）開催し、児童虐待に関する院内体制の実効性を確認し、必要であれば改善策を立案しているか。）
11. 10は、会議録が作成・保存されているか。
12. 10は、院内の職員に周知・伝達されているか。
13. 5～12のすべてが確認できるか。

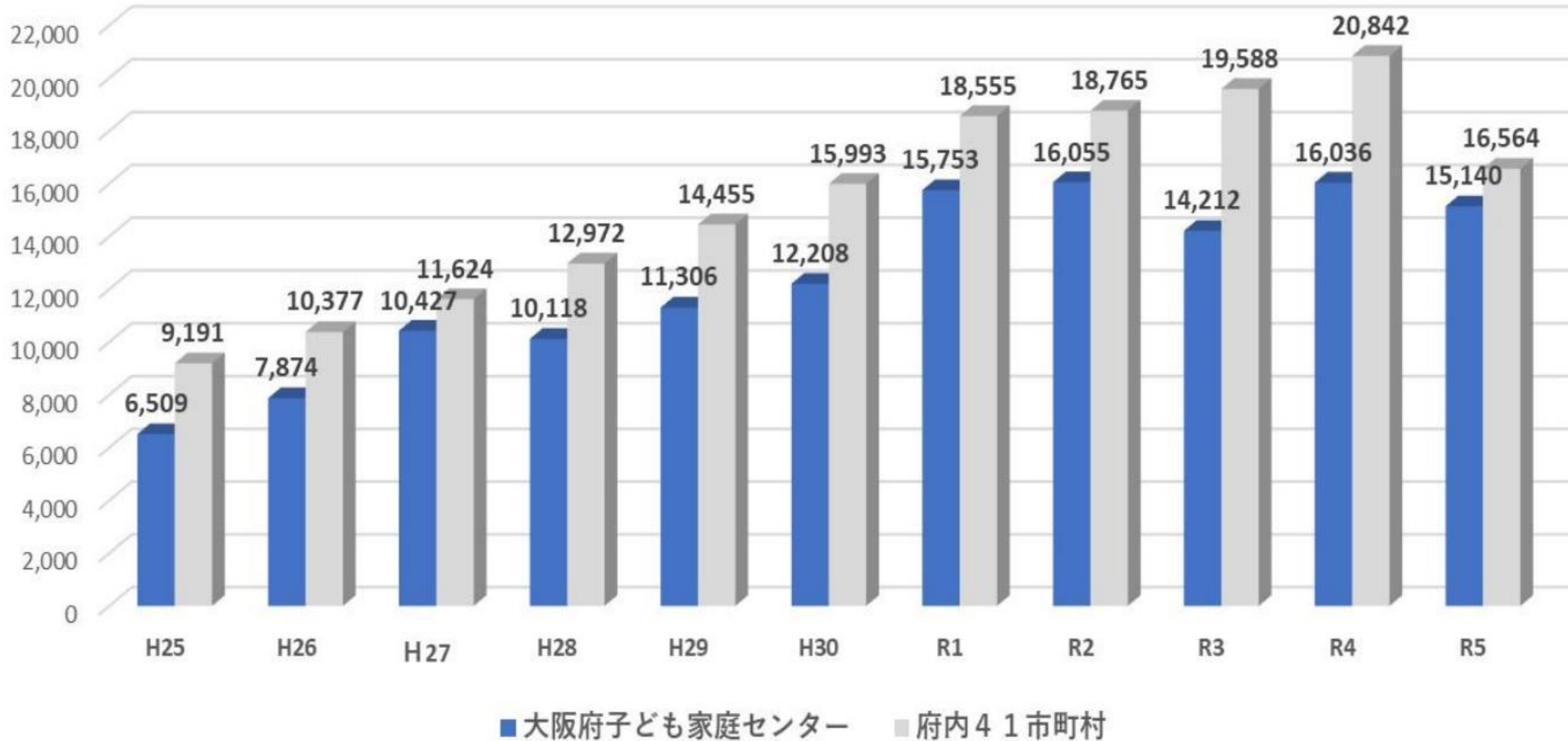
児童虐待対応院内体制整備に関する自主点検のご協力をお願い

■ B-2 児童虐待対応マニュアルの作成について

- 1 4. “児童虐待対応マニュアル”を作成し、職員に周知徹底しているか。（例えば、マニュアルが全ての部署に配布されているか。）
- 1 5. 1 4には、児童虐待の有無を判断することが可能な「チェックリスト」もしくは「アセスメントシート」があるか。
- 1 6. 1 4には、児童相談所の連絡先一覧があるか。
- 1 7. 1 4には、平日時間内、平日時間外、日・祝日等の全ての時間帯に関する児童虐待対応のフローチャートがあるか。
- 1 8. 1 4は、必要に応じて実施状況の調査を行い、定期的に内容の見直しを行っているか。
- 1 9. 1 4～1 8のすべてが確認できるか。

終わりに

大阪府子ども家庭センターと府内41市町村における児童虐待相談対応件数の推移



大阪府子どもを虐待から守る条例第9条に基づく年次報告書より

児童虐待対応件数は増加傾向にあります。

引き続き、院内の体制を維持していただき、関係機関との連携にご協力をお願いいたします。

《問合せ先》

大阪府健康医療部 保健医療室

地域保健課 母子グループ

代表 (06) 6941-0351 (内線4698)